岩手日報　平成24年7月18日付

※この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています

大槌の投打かみ合う
花北青雲、失点響く

◇花巻球場▽４回戦

大　槌
０００１０３００１｜５
０００００００１００｜１
花北青雲

（大）岡谷―金野
（花）大矢、晴山―伊藤
▽二塁打　岡谷２（大）

【評】大槌は投打がかみ合い、花北青雲を下して13年ぶりの８強入りを果たした。四回２死一、二塁に佐藤大の中前打で先制。六回には三浦の適時打などで３点を追加し試合を優位にすると九回にも１点を入れた。主戦岡谷は変化球を織り交ぜながら制球重視の投球で１失点に抑えた。

花北青雲は序盤から得点圏に走者を進めたがあと１本が出ず、七回の１点にとどまった。死球と守備の乱れによる中盤の失点が響いた。

▼一丸野球、勝利つかむ

大槌は３回戦で完封した主戦岡谷惇喜主将（３年）が、１失点に抑える好投でベスト８に導いた。力を配分しながら要所を締める投球。初戦の延長15回を含め３試合連続完投の背番号１は「守備を徹底的に鍛えた野手陣を信頼しているからこそできる」と一丸の勝利を喜んだ。

「直球の調子が良くなかった」と、序盤から内外角を突く制球重視。ピンチでは全力投球になるが、ペース配分することで終盤でも球威は落ちなかった。

春季県大会では守備の乱れから大量失点を喫したチームが２試合連続無失策。堅守で主将を助け、攻撃でも２年生野手が奮起するなど、１人に頼らない勝ち方が整ってきた。

３打点の佐藤大規（２年）は「岡谷さんがすごい投球をしていたので助けたかった」と笑顔。大槌の一丸野球で第81回大会以来13年ぶりの４強入りに挑む。

大槌・三浦大明一塁手（９番打者で３安打１打点）これまで全然打てなかったので、迷わずに球種を絞って打った。３年生を勝たせたかったのでチームに貢献できてうれしい。

花北青雲・久保田圭一主将　相手の投手が一枚も二枚も上だった。負けたので悔いは残るが、高校生活の中で最高の４試合。仲間と笑顔でプレーできたことが一生の財産になった。

花北青雲・大矢明投手（今大会初先発）後輩に頼りきりだったので抑えたかったが、気持ちで押されて力を発揮できなかった。この悔しさを後輩に伝えて野手を助けられる投手陣になってほしい。

花北青雲打線を１失点に抑え、完投した大槌の主戦岡谷＝花巻